



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA-

CENTENNIAL

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER

Dojima Grand Bldg., 1-5-17

Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN

PHONE (06)344-1717

Aug. 1982

0-2

THEME (1982~'83)

- I. P. OPPORTUNITIES
 through PARTNERSHIP.
 R. D. GOOD WORK
 with GOOD HEARTS.
 D. G. 全員参加でワイズにパワーをノ
 メネットも共に。
 P. ONWARD CENTENNIAL.

8月例会プログラム

と き 1982年8月18日(木) 6:30~8:30

と ころ ローゼンタール肥後橋(幸福相互ビル)
 (地下鉄肥後橋下車、肥後橋南詰西角)

司会 西村隆夫君

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 開 会 | 山中会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. ゲスト紹介 | 山中会長 |
| 4. あいさつ | 篠田中西部長 |
| 5. 新規出席者紹介 | 山中会長 |
| 6. 3分間スピーチ(メン・メネット) | 当日指名 |
| 7. 7月役員会報告 | 山中会長 |
| 8. Beer party | |
| 9. インフォメーション | |
| 10. 閉 会 | 山中会長 |

7月例会 出席者〔在籍会員 34名〕

	第1例会	第2例会	MakeUp	集 計
メ ン	20名	16名	6名	26名
出席率	58.8%			76.5%
メネット	3名	0名		
ヴィジタ	2名	1名		
新 人	3名	0名		
合 計	28名	17名		

○ヴィジター 生地幸雄君・世戸一夫君(大阪)

○メネット 黒田・山中・山村各メネット

○新 人 下井 満君・平田雅利君

(堺 羽田野君紹介)

瀬戸孝太郎君(田中君紹介)

— The Armor of God —

Put on the full armor of God so that you can take your stand against the devil's schemes. For our struggle is not against flesh and blood, but against the rulers, against the authorities, against the powers of this dark world and against the spiritual forces of evil in the heavenly realms.

Stand firm then, with the belt of truth buckled around your waist, with the breastplate of righteousness in place, and with your feet fitted with the readiness that comes from the gospel of peace. In addition to all this, take up the shield of faith, with which you can extinguish all the flaming arrow of the evil one.

— 悪に対する戦い —

悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神から与えられた武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、弱い人間を相手にするものではなく、支配と権威の霊、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の霊を相手にするものなのです。

すなわち、立って真理を帯として腰に巻き、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履き物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。

(エフェソスの信徒への手紙、6章11~12; 14~16節)

◇ お誕生日おめでとう

- | | |
|------------|-------------|
| 森 庄司 君 | 1928. 8. 4 |
| 田中 穰二 君 | 1925. 8. 14 |
| 岡本 節子さん(M) | 8. 19 |
| 森 晴美さん(M) | 8. 22 |
| 河野 正義 君 | 1937. 8. 23 |
| 山田 孝彦 君 | 1930. 8. 23 |
| 谷川 寛 君 | 1934. 8. 30 |

チャーターナイトを成功させよう!

準備委員長 長安敏夫

設立総会を無事に終えたわがセンテニアルは、次のチャーターナイトの大イベントを控えております。日時・場所も既報のとおり決定し準備委員会が発足しました。山村君を副委員長に、鈴木・上月・河野・田中・谷川・中村・山中・山田の諸君が何回も会合を重ねております。スポンサークラブからも経験豊かな生地幸雄君が毎回応援くださり心強い限りです。他のクラブには見られない特色をもったものにしたいと知恵をしぼっております。

「国際的奉仕に努める」のが我がクラブの特色であります。「アジアの仲間に向けて」との設立総会でのアドバイスを体して、今日のアジア問題についての講演とインド古典舞踊を中心としたプログラムを準備中です。わがクラブメンバーだけでなく、当日のお客様も含めたワイズメン・メネットみなさんを広く国際的視野の中へご案内する計画です。

何といたっても国際加盟が認められるという非常に重要な行事ですから、全会員が深い関心をもって、お互いの力を結果して成功させたいものと念じております。

チャーターナイトプログラム・ラフプラン

とき 9月25日(土) 2:00~6:00 p.m.
ところ ロイヤルNCB会館(中之島センタービル)
プログラム

第一部 式典

司会 谷川 寛 君

- 開会・ワイズソング
- 聖書・祈祷・讃美歌
- チャーター伝達式
- 祝辞・祝電・答辞と感謝
- チャーターメンバー紹介
- 記念品受贈
- YMCAの歌・閉式

第二部 エンターテイメント

司会 正司 泰子姉

- 記念講演 東南アジア問題 講師 未定
- 余興 インド古典舞踊

(Vasantamala Indian Dance Institute)

記念撮影

第三部 ビュッフェ・パーティ

司会 中村 隆幸君

会費 メン 10,000円
メネット 8,000円

会員名簿(追録)

正司 泰子 10.24.
Shooji Yasuko

665 宝塚市雲雀丘2-5-22 0727(57)5727

世界の榮譽「Ballantyne Award」

われらの鈴木謙介君に輝く!!

第55回ソウル国際大会において、国際ワイズダム最高の榮譽であるHarry M. Ballantyne Award がわがセンテニアルクラブの長老鈴木謙介君に贈られた。これはワイズダムにおいて特段に貢献の高い実績を評価して贈られるもので、わが国では日本ワイズダムの創立者である故奈良伝氏に次いで2人目の受賞である。わがセンテニアルクラブの誇りというような小さな問題ではなく日本ワイズダムの名譽となることであり、そのメッセージの内容もいづれ日本区よりの公式報道がなされるであろうが、特にその中で美藤夫人のメネットとしての活躍が高く賞されているとのこと。センテニアル一同二重のよろこびで一杯であります。

センテニアルクラブ収支予算('82.7.1~'83.6.30)

収入の部		
前期繰越金	67,232	
会費	1,554,900	
入会金	520,000	
雑収入	50,000	
計	2,192,132	
支出の部		
会費	246,400	国際、アジア、日本区
入会金	216,000	国際加盟、日本区入会
諸分担金	53,500	中西部、日本区大会
例会費	650,000	食事、会場、謝礼
事務費印刷費	340,000	ブリテン、消耗品など
通信交通費	115,000	
物品費	94,000	名簿など
事業費	301,000	PWASF, BF, メネット会
褒賞費	15,000	
慶弔費	84,000	
雑費	40,000	
予備費	37,232	
計	2,192,132	

YMCA ニュース

— YMCAカーニバルへのお誘い —

今年も恒例のYMCA六甲カーニバルが下記の要領で開かれます。センテニアルワイズのみなさん、ご家族やお友達をお誘い合わせのうえみなで参加し、涼しい六甲山頂で親睦の輪を広げようではありませんか。プログラムも野外運動会、もちつき、オークションなど、楽しさで一ぱいです。ぜひみなさんのご参加をお待ちします。

とき 9月15日(祝) 10時半~3時

ところ YMCA六甲研修センター

入場整理券 300円(幼児以下無料)

詳しいことはチラシをご覧ください。

第55回ソウル国際大会レポート

鈴木 謙 介

第55回ワイズ国際大会は7月20日～23日、ソウルにて盛大に行われ日本からは240名の出席、当クラブからは鈴木夫妻2名だけでした。

第1日は会場が広大な「世宗文化ホール」で開会式・フラッグセレモニー・国際役員就任式などが厳粛に行われ、国会議長、ソウル市長の挨拶、4000人のハレルヤコーラス大合唱が巨大なパイプオルガン伴奏で演奏されるという歴史に稀なことが行われ、出席者に多大の感銘を与えた。

第2日から主会場をロッテホテルに移し各種分科会や韓国文化紹介の歌唱や舞踊、特にメネットのためにはヒョータンへの彫刻、水墨画の実技、有名な梨花女子大学訪問など多彩なプログラムがあった。毎朝の祈禱会、メソヂスト教会へ大学出向いの礼拝なども行われた。

出席総数は1191名と報せられ韓国582名、日本236名、米国126名、台湾59名、デンマーク47名、スウェーデン29名などで参加国は25ヶ国（ワイズ加盟は50ヶ国）だった。ひとつのプログラムで最も成功したものは、第2日の夜、海外出席者全員がソウル附近の12クラブの各家庭へ招かれて夕食を供され韓国の家庭生活を実地に見学し、個別に親睦を厚くするHome Visitだった。大きい家、小さい家、若い夫婦の家、隠退者の家とさまざまだったらしい。滑稽なこと、ほゝえましいことなどが如く発生し、わけても得難い友情のもとになった様である。今度の大会のハイライトだった。私共はP. I. P. の Joseph Ohmの家にI. P. の Max Larson夫妻、P. I. P. の Tod Gunkelman夫妻、Sweden, Taiwan, Nigeriaからの国際議員夫妻らと招かれ、韓国料理の佳味を満喫し楽しく交歓した。ソウルは戒厳令が既に解除されていて深夜通行が今は出来るから、2時、3時迄ホストのところで遊ばせてもらった人達もあったとのこと。これによって親しくなった人々は閉会式で涙をもって再会を約した。

主題講演者としてYMCA世界同盟副会長福田垂穂氏（明治学院大学社会学部長）はYMCAとワイズとの基本的関係に触れる感銘深いスピーチを行われた。公用語が英語だから、日本人向け、スカンジナビヤ向けにはそれぞれ同時通訳をつけたため、英語に弱い人も参加することが出来た。YMCAの本行・宮部両主事がこの役を引き受けて下さってよかった。

総じて“Partnership”ということが単にYMCAとの関係だけでの範囲にとどまらず広く度々用いられ、“Partnership Convention”と称してもよい位だった。新聞やTVも毎日詳細に報道し、記念郵便切手が発行されたりした。韓国150クラブ、4000人の会員にとっては畢生の大事業だったし、自信を確かめる絶好の機会であった。内心少し懸念していた大会だったが、大成功だったので大いに喜んで帰阪することが出来た。

来年は国際大会はない年で、アジア大会が台北シャングリラホテルで5月20～22日と決まり、1984年の第56回国際大会はGrand Rapids, Michigan, July., 25～28と決った。センテニアルから大代表団を送ろうではありませんか。

泉北ワイズチャーターナイト出席の記

中村 隆 幸

泉北ワイズメンズクラブのチャーターナイトは、雨の降りしきる日曜日の7月11日に、榎センタービルで午後2時から挙行された。

第1部の式典には、松崎豊日本区理事をはじめとして、約160名のワイズメン・ワイズメネットが参加して行なわれた。28名のチャーターメンバーとメネットはそろいの黄色いTシャツを着用されて、いかにも家庭的なふんいきを持ったクラブであるとの印象を受けた。式典ではゲストの方からの祝辞が多数あったが、これも地域と密接なつながりを持った活動をして行く為には必要なことと思われる。

第2部では、日系二世でカリフォルニア州立大学のDr. Sigeo H. Kanda 教授の「日本の宗教と文化について」という講演を、梅花女子大学の加山教授の通訳で楽しく拜聴し又音楽演奏では珍しいソバロック音楽を楽しませて頂いた。

第3部の祝会では、泉北クラブのメン・メネットによる本当に心のこもった手作りのもてなしに心を強く打たれた。最近のチャーターナイトはだんだん派手に、そして豪華になりつつあるように感じていたが、泉北クラブの素朴で心のこもったチャーターナイトこそ本来のワイズメンズクラブの姿ではないかと考えさせられた。ワイズメンズクラブの活動は基本的には全て同じものであるが、各クラブの置かれている条件、例えば大都市と小都市、又YMCAのあるクラブとそうでないクラブといった違いによって、その活動内容に若干の差異が生じてくると思われる。泉北クラブはYMCAを持たないが、地域とのつながりを生かした活動を進めて行くには素晴らしいクラブでないかという印象を受けた。わがセンテニアルクラブは地域とのつながりは持ち難いが、YMCA、中でも国際・社会奉仕センターとのつながりを強く持って活動して行くことが、泉北クラブとは違った意味での地域とのつながりになるのではないかと考えた次第。なお、わがクラブからの出席は、山中会長以下、鈴木、田中、谷川、中村の5名であった。

《 編 集 後 記 》

◇長雨もようやく上って、待ちかねたように蟬の大合唱。一夏限りの短い生命を精一杯に生きる「歓喜の歌」か「ハレルヤ」か。そう思って聞けば暑苦しさよりはむしろ爽快さを覚える。

◇長崎、熊本の水禍による犠牲の大きさに心が痛む。自然は人間を優しくつつむものと考えて接している日本人にとて、時たま出会うこの自然の厳しさには、呆然として天を仰ぐのみ。それにつけても一夜明けた泥海の中から、たちまち立ち上がろうと懸命の市民の姿は、テレビを通じて見てさえ感動を覚え、とても若いなどとはいっておれない気持です。一刻も早い再起をお祈りします。

◇今月の聖句は少し長くなりましたが、山中会長のテーマ Onward Centennial の心意気にふさわしいものとして選んで載せました。勇気をもって力を合わせて、チャーターナイト成功のために前進しよう！